



美しい海を守る耕土流出防止の取組

ぎのぞそん

きのぞそん

宜野座村農地・水・環境保全組織（沖縄県宜野座村）

- 当地域は、勾配が急なほ場において、大雨のたびに土壌の流出により耕土が減少するとともに、この耕土が海に流出することで、貴重な珊瑚の生息地である美しい海が赤色に染まり、自然環境や水産業に悪影響を及ぼしている。
- このため、農業者及び地域住民が危機意識を持ち、地域で定期的に農地パトロールを行い、排水路や沈砂池の土砂をさらって農地に還元している。また、亜熱帯地域に生息する多年草である月桃（げっとう）によるグリーンベルトの植栽・管理も行っている。総面積は630m²であり、県内の約3割を占めている。
- 加えて、グリーンベルトの管理作業で発生した刈草は、チップにしてマルチング材として活用し、これにより場が保護され、赤土流出防止に更なる効果が発揮されている。

【地区概要】

- ・取組面積 467ha
（畑447ha、草地20ha）
- ・資源量 開水路113.0km、農道53.6km、
ため池 2箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、
青年会、婦人会、子供育成会 等
- ・交付金 約10百万円（H29）

（農地維持支払
資源向上支払（共同））

排水路・沈砂池の土砂を 農地へ還元



降雨後の海の様子（赤土流出）



排水路の土砂の浚渫

梅雨入前や、台風前などに巡回をし、
優先順位をつけて浚渫作業を実施。

グリーンベルトの設置による耕土流出防止の取組で「美しい海へ」

①グリーンベルトの維持管理



月桃（げっとう）の植栽



月桃（げっとう）によるグリーンベルト
（総面積630m²）

②刈草をチップにして マルチング材として活用



月桃（げっとう）のチップ加工



耕土流出防止のため
ほ場末端部にマルチング



地域資源の保全管理～畑地域における広域化の取組～

みやこしましぐすくべ

みやこしまし

宮古島市城辺地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会（沖縄県宮古島市）

- 宮古島市城辺地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会は、平成19年度から地域内の13集落で「農地・水・環境保全向上対策」（以下、「農地・水対策」という。）の活動を開始し、平成24年度から19集落に拡大、平成26年度「多面的機能支払交付金」へ制度改正時に、地域内の全24集落で活動する広域活動組織となる。
- 農地・水対策に取り組む前は、個人や少人数グループの人力による小規模な草刈作業だけ実施していたが、農業者の高齢化等による労働力の減少等により、適切な施設の維持管理が困難化する中、全集落での共同活動による側溝や浸透池の泥上げ、雑木雑草の伐採などの取組は、地域資源の適正管理に寄与している。

【地区概要】

- ・取組面積 3,055ha（畑3,055ha）
- ・資源量
排水路17.8km、パイプライン 0.07km、
農道 203.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会等
- ・交付金 約58百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化等により、労働力が減少している中、個人による施設の維持管理に限界。
- 地域において、農業者・非農業者の混住化が進み、地域住民がまとまって地域の農村環境を知り話し合うきっかけがなかった。
- さらに、近隣集落の住民が連携して地域環境を支える活動に参加しやすい組織作りが必要。



作業前の浸透池

取組内容

- 個々の農業者では管理が難しかった浸透池や沈砂池、排水路の状況を組織で点検し、優先順位を確認して、堆積した赤土を人力または重機を活用して排出。



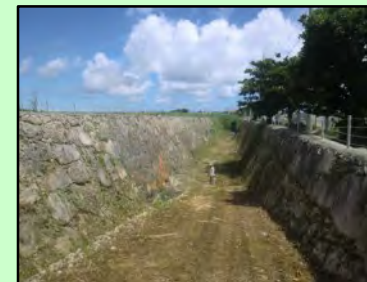
組織による施設の点検



側溝や浸透池の泥上げ

取組の効果

- 平成29年度は、浸透池や側溝の適正管理に延べ人数で740人余が参加し、農地の保全活動を実施。
- 優先度の高い施設から対策を行ったことにより、大雨時の道路や農地の冠水被害が軽減され、また赤土の流出量も減少。
- 各施設が集落の目に触れることとなり、ゴミの不法投棄の防止、野鼠や鳥獣によるさとうきびなど農作物の被害防止も期待でき、施設の適正な維持管理・保全の効果は大きい。



作業後の浸透池